

アイチェジでおこなわれた  
「ゴミをどこへ捨てるか」  
「ゴミは家庭で分別するのか、ゴミ捨て場でやるのか」  
「プラスチックは私たちの健康や環境にどんな影響をあたえるのか」  
「どうすれば町が清潔に保てるか」  
これらのテーマに関わる  
啓発アクションについての報告

事前準備としてアイチェジ地区長は、この地区を 20 の小区に区切り、それらを共通点に基づいて 6 か所の大区にまとめました。各小区から、その大きさによって 2 人から 4 人の代表者を啓発アクションに参加してもらいました。

2020 年 1 月 25 日 - 第 1 回ワークショップ

司会者がこのプロジェクトを紹介しました。参加者は興味を持って熱心に議論しました。このテーマが地域社会の痛い所についているのがわかりました。管理されていない多くのゴミ捨て場は健康に害を与えるものとみられていました。



公共のゴミ捨て場について話し合いが行われました。アイチェジ地区には公共のゴミ捨て場が既にあります。その後、ゴミをどう処分するかという問題提起がありました。毎週二度ゴミを集めるとすれば、このゴミ捨て場は狭すぎるからです。それでゴミの再生利用についての話になりました。「ゴミをどのように利用できるのでしょうか？」肥料にするという話が上がりました。この地区長は去年の 9 月にドイツへ行って堆肥化施設を見学しており、その話をしました。彼はその話の終わりに、アイチェジにはドイツにあるような施設を建てる資金はないが、だからと言って、類似のことを簡易化してできないわけではないと言いました。また、プラスチックに関しては圧

縮したうえで、燃料として利用する会社（セメント工場など）に売ることができるという話もありました。ただし、売却先が適切に排気をフィルターしていることも確認しなくてはなりません。ビンはジュース製造者に、鉄くずは金物屋に売れます。これらの可能性を議論した後には、いつどこでゴミを分別すべきかという問題に進みました。この議論の前に、司会者は出席者全員に、一緒に管理されていないゴミ捨て場を見にいきましょうと言いました。



ゴミ捨て場の臭いに多数の出席者は嫌悪を隠しませんでした。けれども視察は単なるゴミ捨て場見学では終わりません。司会者は使い捨て手袋の箱を出すと、皆に配りました。出席者たちは恐る恐るゴミ山に登り、個々のモノをひっぱり出しました。



ゴミ分別の場所の問題には、この作業自体から回答が出ました。ゴミ捨て場での分別は誰にも押し付けられません。その上、ゴミ捨て場での分別は命にかかわるかもしれないことがわかりました。何故なら、いまなお多くの看護助手たちが使用済み

の注射針を病院内できっちり処理していないからです。ゴミ捨て場ではその針に刺さってHIVに感染する危険があります。各家庭は少なくとも3種類のゴミバケツを持つべきだという意見で参加者全員が一致しました。そこからまたゴミ捨て場自体の問題へと話が続きました。分別されたゴミを分けて保管し、再利用に向けた前処理ができるよう、少なくとも3ヶ所のゴミ捨て場が地区に必要なだと、参加者たちは意見しました。

第1回めのワークショップの終わりに、ゴミ問題を組織的に解決する方法を考えるという宿題が参加者に出されました。

## 2020年2月1日 - 第二回ワークショップ

2回目のワークショップでは前回のことを復習しました。それから参加者はこの間に考えたことを報告しあいました。ゴミ捨て場には大量のプラスチックがあったのでプラスチック用のゴミ捨て場は大きくなってはならないという意見が出ました。司会者はこの機会を利用して、私たちの健康や環境にプラスチックがもたらす害について語りました。環境ホルモンやプラスチックの他の成分については参加者にとって新しい情報でした。それから環境の中で生分解する袋の話もできました。けれども司会者は、もっともよいゴミは出ないゴミであることを聴衆に示唆しました。つまり、ボウル、ビン、布袋や植物の葉を包装に使うということです。



(この写真はアカサを従来の方法で葉に包んだものです。アカサはトウモロコシのでんぷんでできたゼリーで、ソースと一緒に食べます。今日では多くの女性が葉の代わりにプラスチック袋を使っています)

それから、不要な包装を家に持ち帰るのではなく、スーパーマーケットや出店に残すという話が出ました。たとえば、チューブに入っている歯磨きの箱が不要と考えられます。買い物客がゴミを家にもって帰るのを拒否すれば、商売人はそのゴミを生産者のところに返すでしょうから、最終的には生産者が不要な包装を減らすことにつながるでしょう。

最後に、それぞれの小区と大区をどのように組織すれば、地域を清潔に保てるかということ話し合いました。月に一度の清掃日を決めるという案が出ました。その際、掃除用具が足りないという意見が出ました。さらに若い人たちに推進員になってもらい、モノを道に捨てる人に話し掛けてもらうというアイデアが出ました。また、各小区でゴミ問題を考える啓発アクションをおこなうことになりました。さまざまなアイデアが出たため、それらをもう一度集まって煮詰める計画となりました。



## 2020年2月8日 - ゴミ問題を考える大啓発アクション

アイチェジ地区長はこの地区内の住民を全員招待して大啓発アクションを開会しました。司会者は出席者のみなさんに今までの作業について手短かに説明をしました。

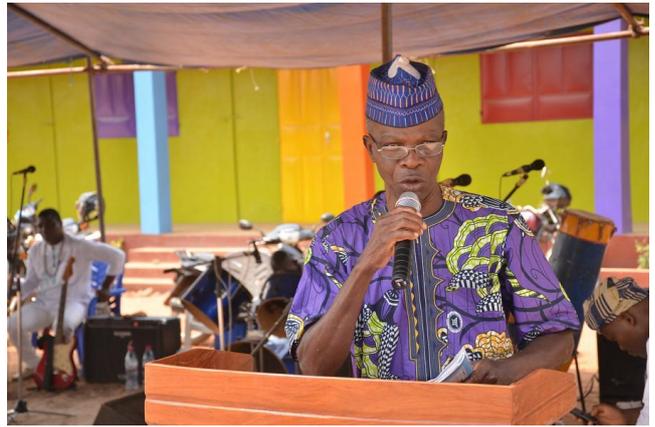


音楽グループ「Vie et Culture」が、主にプラスチックをテーマにした劇を上演しました。



その後は、未成年、若い人たち、母親たち、父親たち、学校の保護者会、地域の識者など、住民グループの代表がそれぞれ意見を発表しました。





それからワークショップの参加全員に参加証が渡されました。



最後に「エコル・ド・ソリダリテ（連帯の学校）」がアイチェジ地区のみなさんに、掃除の日のための道具でいっぱいの手押し車を渡しました。

